

コロナ渦遠隔授業におけるワークシート『ESSECNE』の有用性

Usefulness of the worksheet "ESSECNE" in the corona whirlpool remote class

○鈴鹿高専 黒飛 紀美

National Institute of Technology, SUZUKA College

E-mail: kurotobi@mse.suzuka-ct.ac.jp

2014 年から独自のワークシートを用いた授業を数学や物理で展開してきた*。A4 のシートを 4 ～5 分割したワークシートは極力説明を省いた形で書かれており、『本質』を意味する『ESSENCE』と名付けた。2020 年 4 月に移籍して現在の鈴鹿高専材料工学科に赴任したが、5 月から遠隔授業を行うことになり、本 ESSENCE を用いての授業を検討することにした。高専の遠隔授業では材料環境科学 (5 年生選択科目) を担当したが、当時新任の授業とあって目新しかった為なのかクラスのほぼ全員が選択し受講していた。

授業は図にあるようなワークシートを事前に学生に配布し、授業にはそれらを各自プリントアウトして臨むように指示した。1 回の授業で進む内容は 1～2 ページ以内である。ワークシートの左端には授業回数とそのタイトル、シラバス目標を明記し、項目ごとに仕切りを設けて、仕切りの上下の部分には小見出しを付けている (Fig.1)。特に強調したい部分や覚えてもらいたい用語、計算など書き込めるスペースも用意した。授業では ESSENCE の区切られた領域ごとに power point で資料を作成し、学生に teams 配信を行った。授業の終わりには forms による小テストを課し、テストの締め切りは授業の翌日とした。翌授業には、小テストの解説を 20 分、授業を 70 分、といったルーティーンで授業を進めていった。

本ワークシートを用いた授業は、学生の板書量を抑え大切なところを聞き逃さない教授ツールとして利用できると考えている。今回、授業として初めて行った教科がコロナ渦下での遠隔授業をせざるを得ない状況であった。しかしながら、授業終了時の授業アンケート結果は 5 年生クラス平均に対して 11 項目中 9 項目に対し若干上回る非常に良い結果であった (Fig.2)。現在は対面授業に戻ったが、同様な ESSENCE を併用した化学の授業を継続して行っている。

*反転授業を効率的に遂行する唯一の方法—ワークシート『ESSENCE』を用いた教授法—,黒飛紀美,東京理科大学紀要 (教養編)

第 51 号 (2019 年 3 月)

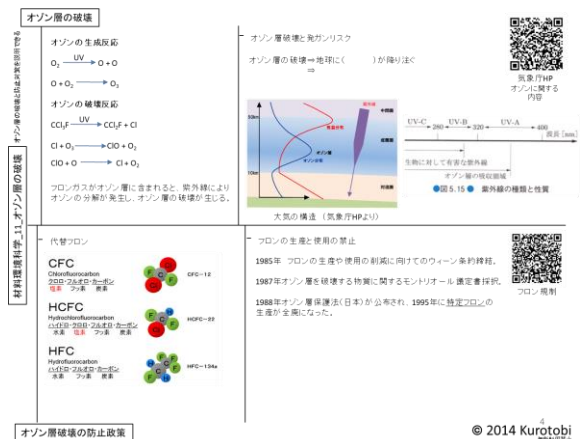


Fig.1. "ESSENCE" worksheet

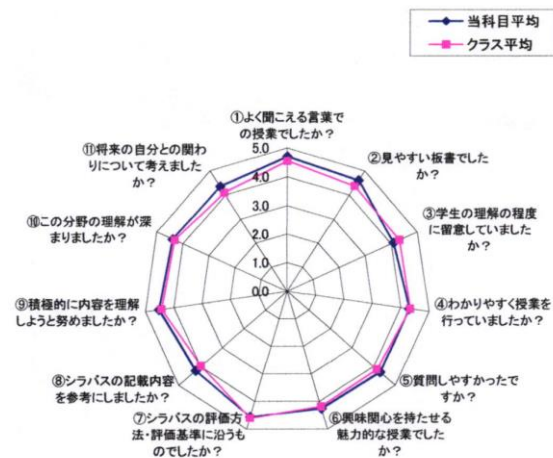


Fig.2. The results of class questionnaire